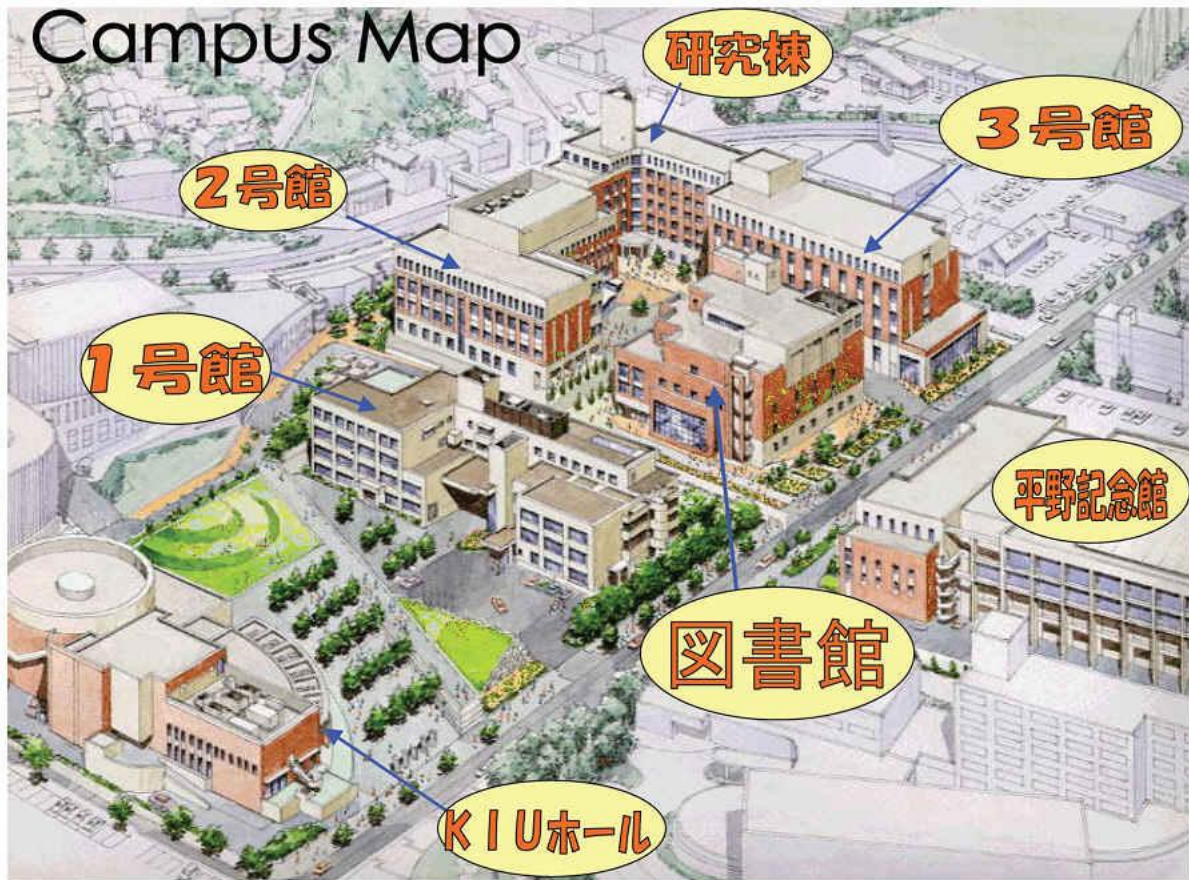


図書館報

Kyushu International University Library Bulletin

vol.
20



Contents

- 「立ち読みの哲学」…………… 古屋 邦彦 … P.2
- 「図書館ノチカラ」…………… 安藤 友張 … P.2
- 私にとっての図書館 …………… 上杉 貴志 … P.3
- 図書館のイベント情報 …………… P.3
- お知らせ …………… P.4
- 利用統計 …………… P.4

「立ち読みの哲学」

図書館長（法学部教授）古屋 邦彦

「貴方の趣味は何ですか？」と聞かれ、無趣味な私が苦し紛れに答えるのが「読書」である。子供の頃は今のように入パソコンゲームやビデオ等の娯楽が普及していなかったから、本に対する欲望は強いものがあったが本を買うような小遣いはそうそうもらえない。ところが世の中はうまくしたもので、小学校2年のとき我が家は引越しをしたのだが、その引越し先の真向かいが大きな本屋であった。早速、私は学校から帰ってくるとその本屋に入り浸りになった。書架に並べて売っている本を片端から立ち読みしたのである。これはくだんの本屋にとって見れば良い迷惑で、そこの店員と天敵の間柄になるまでにたいした時間はかからなかった。その店員は私の姿を見かけると、私の脇にすいと立って、怖い顔でにらみつけたり、用もないのに私が好む書架の前に立ったりして私の立ち読みを妨害する。また私がよく読む漫画類（今はコミックと言うのか）や子供物の雑誌を手が届かない位置に移すなど、あの手この手の防御策を講じてきた。さすがに子供心にも引け目を感じて、月に一回親からもらう小遣いや、祖母から臨時にもらう小遣いが手に入ると真っ先に本屋に行って本を買ったのだが、立ち読みした本はその数十倍に及んでおり、くだんの店員との関係改善にはまったく繋がらなかった。今であれば町には色々な図書館が設置されており、このような子供や学生の読書欲を満たすことは簡単であろうが、戦後10年足らずの地方の町ではそんな設備は望むべくもなかった。これは大人にとっても同じ事であったようで、そのころの本屋の店先は買う人よりも立ち読み客であふれていたように思う。負け惜しみではないが、子供心に「立ち読みしても、十冊か二十冊に一冊位は買うのだから客のうちだ」「立ち読みするから本が買いたくなるのだ」と言う気持ち（哲学？）があったから、その店員とのバトルを止めようとはしなかった。このバトルは中学、高校へと進み、小遣いが多少増えて正規に本を買う機会が多くなったことと、そのころ設立された県立の図書館を利用する機会が増えたことから自然消滅していった。しかし今でも、立ち読みはその本屋を利用するものと言う主張（哲学？）に変わりはない。私の観測では立ち読み客が多い本屋ほど繁盛していると感じるのだが、この哲学（？）を裏付けるがごとく最近では立ち読みを奨励する本屋が増えてきたようだ。今でも時折、店先に立ち読み客用にベンチやイスを置いている本屋を時々見かけて、子供心に感じた立ち読みの哲学（？）の正しさを検証したような気がしてにんまりしている。

「図書館ノチカラ」

安藤 友張（経済学部准教授 図書館学担当）

数年前、「恋ノチカラ」というテレビドラマが放映された。そのドラマの中で、準ヒロインが「図書館は神秘的でまるで森みたい」という台詞を述べた。これは私にとって非常に印象的な言葉であった。図書館の開架書庫に入ると、静寂でまさに神秘的で森にいるような心地良さを私自身も感じる。

学生時代、大学図書館に毎日のように通いつめ、開架書庫で論文作成に必要な資料を探し求めた。資料を読むことよりも資料を探すこと自体が楽しくて仕方なかった。インターネットが登場していない時代において、資料を探すことは手間と時間がかかる作業であった。しかし、苦勞してお目当ての資料が開架・開架書庫で見つかったときは嬉しくて仕方なかった。「図書館は資料との出会いの場」であることをつくづく感じた。読書量が少ないにもかかわらず、膨大な数の図書・雑誌の資料群を目の前にしていると、不思議と自分が博識になったような気分になった。また、文献収集においては図書館職員の方々から「極意」を教えていただいた。まさに、「図書館ノチカラ」を体感した。

それから長い歳月が経ち、図書館をめぐる状況も大きく変化した。インターネットで蔵書検索できる時代となり、わざわざ図書館まで足を運ばなくても資料を探すことが容易になった。便利な時代に生きている今日の若者を羨ましく思う反面、はたして「図書館は神秘的でまるで森みたい」という台詞を実感できる体験を学生達がしているのだろうか。新入生のみなさんには、これから始まる大学生活において、ぜひ一度は「図書館は神秘的でまるで森みたい」と思えるような体験、また「図書館ノチカラ」を肌で感じるような体験をしてほしい。高校時代までの授業はどちらかという、教科書中心で学校図書館を活用しなくても卒業することが可能であったといっても過言ではない。しかし、大学における授業は、大学図書館を活用しないと単位を取得することができず、無事卒業できない。「図書館ノチカラ」を信じ、是非積極的に大学図書館を活用してほしい。

よくあるQ&A

Q&A

Q 何冊、どれくらい借りられるの？
A 一人5冊まで、2週間です。但し、**指定図書**は1冊で1週間です。返却日が遅れたら、遅れた日数分だけ貸出停止になるから注意して下さい。
例) 4/1日が返却日だったが、5日に返却。4日間遅れているので4日間貸出停止になります。

Q 雑誌や辞書は借りられるの？
A 2階にある図書全てと、**赤い禁帯出のシール**がついているものは貸出出来ません。
Q 英語関係の本はどこにありますか？
A TOEIC関係の新しい本が欲しい…。
A 3階です。分類番号は830～、棚番号は29番です。

2

指定図書とは、教員が学生のために選んだ参考図書です。

禁帯図書とは、貸出ができない図書の事です。

私にとっての図書館

法学部 総合実践法学科 平成19年3月卒業
上杉 貴志

私にとって4年間で図書館という存在は、大学生活において欠かせない存在の一つであります。そして、そのような大きなキッカケを作ってくれたのは、大学の課程の中に含まれている図書館学課程でした。もともと読書は苦手な方で大学入学まで図書館というものを指折りの数ぐらいしか利用していませんでしたので、大学図書館という所もそんな感じだろうと思っていました。しかし、課程を受けることで様々な図書館の歴史、在り方などを学んでいくことで、徐々に図書館の方へ足が向いていきました。図書館を活用することで一番に読書が好きになりました。そしてもっと図書館を活用していこうという気になり、講義に必要な書物の閲覧、娯楽、サークル活動に必要な調査など様々なことで図書館を活用していきました。また、課程での図書館実習では図書館の業務（ブラックボックス）を実際に経験し、改めて図書館の意義・必要性を目の当たりにしました。



私にとって、図書館はまだ奥深いところがあり、知り尽くせていないところがある所と感じています。しかし、本当に図書館に縁がなかった自分がこの4年間で変わったのは事実です。図書館に行くだけでも、あらゆる発見があり、時には救われることもあると思います。皆さんもこの大学生活で図書館を欠かせない存在として活用していくことをお勧めします。

図書館のイベント情報

11月 「北九州市ゆかりの作家たち」

「北九州市立文学館」のオープンにあわせて本学図書館でも北九州にゆかりのある作家の作品を集めて展示をしました。文学系の本は少ないですが意外と北九州ゆかりの作家の本はありますよ。一度手にとってみてはいかがでしょうか？



12月 「★メリークリスマス★」

本学図書館所蔵の絵本を集めて展示しました。簡単な英語の本も絵本なら分かりやすいと思いませんか？貸出もできますので、読み聞かせなどにチャレンジしてみませんか？



よくあるQ&A

Q 小説が少なすぎる…。

A 大学図書館は、専門書を中心に取り揃えているため小説は少なめになっています。しかし、近くに公共図書館もあるので、そこに行けばたくさんあります。

Q 過去の新聞は見られるの？

A 1年前～2年前の分まで見る事が出来ます。西日本新聞は1985年から原紙のまま、朝日新聞と日本経済新聞は縮刷版があります。

図書館にない本は1年間3冊までリクエストができます。カウンターにある「学生希望図書票」に記入して提出してください。

図書館からのお知らせ

☆☆★★4月から**土曜**の開館時間に変更になります!★★☆☆

変更前…9:10～20:00 → 変更後…9:10～18:00

4月からの開館時間

4/1(日)～4/11(水)
平日…9:10～16:30
土曜…9:10～16:00

4/12(木)～
平日…9:10～22:00
(第4水曜…13:00～22:00)
土曜…9:10～18:00

休館日

日曜・祝祭日・第4水曜13:00まで
(館内整理のため)

※ 来館の際は、開館カレンダー等をご確認ください。

図書館ガイダンスを開催

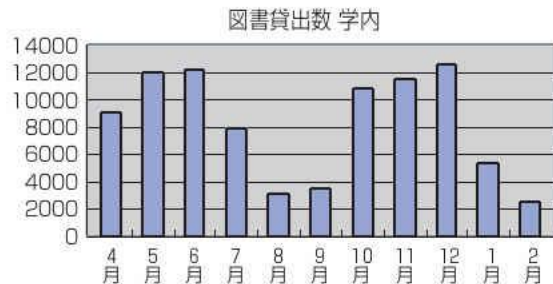
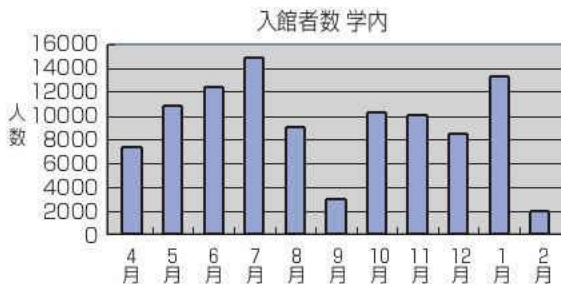
開催日：4月～6月(月～金)

時間：①14:00～ ②15:00～
1日2回 約40分間の予定です。

本の探し方や、図書館の使い方などを
わかりやすく説明します！
詳しい情報は、図書館のホームページを
ご覧ください!!



平成18年度利用統計



《編集後記》

新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
学生生活の中で図書館をフルに活用してくださいね。
わからないことは職員に気軽にお尋ねください!

北九州市八幡東区平野1-6-1
TEL (093) 662-8305
FAX (093) 662-8339

図書館報 Vol.20 2007年4月発行
編集発行 九州国際大学図書館

ホームページ <http://www.lib.kiu.ac.jp/>